

私たちはなぜ、「それ」をするのか。

～自分たちの「取り組み」を深く掘り下げ、はたらくことの支援を改めて考える～

はまかぜ
太陽の家

山本恵理子
海野秀美

1、はじめに（今テーマの経緯）

就労支援部会では、これまでに職員のまたは利用者の「はたらく」について、様々な角度から考えてきました。

昨年度は、「支援者としての醍醐味」をテーマに、葛藤や苦しさに向き合い続けたからこそ見いだせた、支援を通した楽しさ・やりがい・人と人が関わり合うという事など、個々が感じているこの仕事における醍醐味に着目し、発表してもらいました。

今年度は、具体的な取り組み内容にも焦点を当てていきたいと考えています。特に、「どんなことをしているのか」だけでなく、「なぜそれをしているのか」ということを掘り下げて考えていくこととしました。

発表者は、活動内容そのものの紹介にとどまらず、どんな経緯でそのことが始まったのか、またそのことを続けていくことを選択しているのはなぜか、といった掘り下げ、自己点検や振り返りの機会としました。

それぞれの事業所が行っている活動や内容の経緯・コンセプトを掘り下げて言語化していくことで、事業所そのものの理念や目指すべきことも同時に明らかになっていくことと思います。そのことが、所属する支援員たる職員みんなの意思統一、モチベーション維持にもつながり、ひいては利用者のはたらくことについての支援における質の向上にもつながることだと考えます。

今年度も、テーマに沿った話題提供・実践報告を2名に発表してもらい、その後発表者と参加者とで意見交換して深め

ていきたいと思っています。そしてその発表や意見交換を通して発表者も参加者も自身を振り返り、明日への活力としてさらなる実践につなげていくことを目指します。

2、実践報告

①太陽の家 海野秀美

「椎茸栽培による効果」

太陽の家では、現在生産活動のひとつとして、椎茸栽培を行っています。はじめは試行錯誤の連続でしたが、今では職員、利用者ともに欠かせない事業所として主の活動になっています。今回は、そもそも椎茸栽培を始めることになった経緯と、実際に今日にいたるまでの苦労や困難、また現状をお話しします。

また、椎茸栽培を始めたことによる事業所内の受け止めや利用者の変化なども踏まえながら、今後の見通し、展望も併せてお話しします。

②はまかぜ 山本恵理子

「餃子からナマズへ

～なぜナマズをやるのか～

これまではまかぜとしては、手作り餃子の製造・販売を生産活動の主としてきましたが、様々な経緯の中でこの度ナマズの陸上養殖業に関与することになりました。

本分科会では、それ以前の法人・事業所としての課題を含めたナマズ養殖導入に至る経緯と、その実情をお話しします。

加えて、就労継続支援B型を提供する

はまかぜとして、そもそも生産活動を行う意義、利用者にとって「はたらくこと」とは何なのか、それに基づく「働くことの支援」とは何か、掘り下げて整理したいと思います。

そのうえで、ナマズ養殖の活動の今後の展望をお話ししたいと思います。